

計画項目番号	44	計画担当部課	農林部 農業支援センター			
基本的方策	IV 適正な財政運営	計画作成部課	農林部 農業支援センター			
重点項目	i 計画的な予算執行	計画関係部課	農林部 農業支援センター			
計画項目名	かじか養殖振興補助金の見直し					
現状と課題 (取組の必要性) 取組項目の概要 (具体的手法)	<p>水産業者等が経営向上及び地場産業の活性化を図るために行う「かじかの養殖・販売」に対して支援することを目的として、平成23年から補助制度を開始した。(補助率1/2、限度額30万円) 現在、飛騨市かじか研究会は、5名(養殖3名、養殖調理1名、加工1名)で構成されている。</p> <p>【補助実績】 平成23年度 1件(内容 冷凍庫の購入、事業費 355,000円:補助金 177,500円) 平成24年度 1件(内容 飼育施設整備、事業費 140,000円:補助金 70,000円)</p> <p>実績も小額であること、また、平成25年度から「がんばる水産業応援事業費補助金」(新たな取組み、規模拡大に要する経費に対する補助制度 補助率1/3、限度額50万円)を創設したため、かじか養殖振興補助金を廃止し、がんばる水産業応援事業費補助金に一本化する。</p>					
取組による効果 (具体的目標)	補助金額の削減と補助事業関連業務の効率化					
	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
計 画	取組内容	平成25年度、26年度と補助要望なし。  平成26年度末をもって「かじか養殖振興補助金」を廃止し、今後は、「がんばる水産応援事業」で対応する。	がんばる水産応援事業費補助金に一本化	前年度に同じ	前年度に同じ	前年度に同じ
	目標	かじか養殖振興補助金の廃止  124千円の削減	前年度に同じ	前年度に同じ	前年度に同じ	前年度に同じ
	目標の説明 (数値目標の場合は根拠)	平成23年度、24年度実績額の平均				
実 績	取組内容					
	目標に対する結果					
	結果の説明 (数値結果の場合は根拠)					
評 価	評価					
	評価の理由及び説明					
見直し	計画改良が必要な点、翌年度以降計画の何を見直したか					
備考 (特記事項)						

計画項目番号	45	計画担当部課	農林部 農業支援センター			
基本の方策	Ⅲ 市民と行政の自立（自律）	計画作成部課	農林部 農業支援センター			
重点項目	ii 地域活性化活動の推進支援	計画関係部課	農林部 農業支援センター			
計画項目名	飛騨市産牛導入事業の見直し					
現状と課題 （取組の必要性） 取組項目の概要 （具体的手法）	現在、子牛獲得に伴う補助制度による補助額が低額（導入価格（税別）の5%、上限3万円）であることから、せりによる子牛獲得が困難な状況にある。また、飛騨市生まれならどのような牛でも補助対象としている現状を、付加価値のある子牛に特化することで、市の特色を強化する必要がある。このため、①経済不況により市場価格が低迷していることの打破、②優良な遺伝子を持つ子牛の市外流失の防止、③飛騨市生まれ飛騨市育ちの飛騨牛の増頭といった、現状の課題を解消することを目的として、飛騨市生まれの和牛子牛を高山市場で購入した市内畜産農家に対し、導入価格の一部を補助する制度を推進する。【H25実績】24頭導入 事業費 648千円					
取組による効果 （具体的目標）	現在でも「おやま系」の牛は雄・雌とも高値で売買されている。この限定された飛騨市産牛の保留・導入に対し補助することによって、同種の導入意識が高まり、「おやま系の郷」として飛騨市畜産の発展につなげる。 ※平成25年度より「系統牛保留対策事業補助金」を制定。					
	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
計 画	取組内容	平成25年度は「飛騨市産牛導入事業補助金」と「系統牛保留対策事業補助金」を併設していたが、平成25年度をもって「飛騨市産牛導入事業補助金」を廃止し、「おやま系」に特化した「系統牛保留対策事業補助金」として推進する。	前年度に同じ	前年度に同じ	前年度に同じ	前年度に同じ
	目標	648千円の削減 おやま系の繁殖雌牛の頭数 H25末 32頭 H26導入 7頭 H26末 39頭	おやま系の繁殖雌牛の頭数 H26末 39頭 H27導入 7頭 H27末 46頭	おやま系の繁殖雌牛の頭数 H27末 46頭 H28導入 7頭 H28末 53頭	おやま系の繁殖雌牛の頭数 H28末 53頭 H29導入 7頭 H29末 60頭	おやま系の繁殖雌牛の頭数 H29末 60頭 H30導入 7頭 H30末 67頭
	目標の説明 （数値目標の場合は根拠）	毎年7頭の保留目標とする。  （おやま系の子牛の内、繁殖に適した優良雌牛は年間10頭弱）	前年度に同じ	前年度に同じ	前年度に同じ	前年度に同じ
実 績	取組内容					
	目標に対する結果					
	結果の説明 （数値結果の場合は根拠）					
評 価	評価					
	評価の理由及び説明					
見直し	計画改良が必要な点、翌年度以降計画の何を見直したか					
備考 （特記事項）						

計画項目番号	46	計画担当部課	農林部 農業支援センター			
基本的方策	Ⅲ 市民と行政の自立（自律）	計画作成部課	農林部 農業支援センター			
重点項目	iii 地域人材の育成支援	計画関係部課	農林部 農業支援センター			
計画項目名	新規就農者（とまと）の育成・確保					
現状と課題 （取組の必要性） 取組項目の概要 （具体的手法）	現在、市内のとまと農家も高齢化により減少傾向にあり、産地維持のためにも新たにとまと農家を確保・育成することが必要である。 このため、JAひだが事業主体となり、とまと研修施設を設置し、毎年3名の研修生を受入れ、2年間の研修を行う取組みを実施し、研修修了後は、研修修了者が飛騨市内で就農していく仕組みづくりを行う。					
取組による効果 （具体的目標）	平成27年度から毎年3名の研修生を受入れ、2年間の研修を行い、平成29年度から毎年3名の研修修了者がとまと農家として就農することで、市内農家数の確保育成を図る。					
	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
計 画	取組内容	・JAひだが事業主体となり「とまと研修施設」の設置 ・平成27年度の研修生の募集（3名）	・研修開始（3名） ・平成28年度の研修生募集（3名）	・研修（6名） ・平成29年度の研修生募集（3名）	・新規就農者（3名） ・研修（6名） ・平成30年度の研修生募集（3名）	・新規就農者（3名） ・研修（6名） ・平成31年度の研修生募集（3名）
	目標	次年度研修生3名の確保	研修生3名の研修実施 次年度研修生3名の確保	研修生6名の研修実施 次年度研修生3名の確保	研修生6名の研修実施 次年度研修生3名の確保 3名の新規就農	研修生6名の研修実施 次年度研修生3名の確保 3名の新規就農
	目標の説明 （数値目標 の場合は 根拠）					
実 績	取組内容					
	目標に 対する結果					
	結果の説明 （数値結果 の場合は 根拠）					
評 価	評価					
	評価の理由 及び説明					
見 直 し	計画改良が 必要な点、 翌年度以降 計画の何を 見直したか					
備 考 （特記事項）						